

日本語の再発見 漢字で教へる

学習心理学で、「ひとりで覚えたものは忘れ難いが、覚えようと努力して覚えた事は忘れ易い」と言はれてゐるが、人間の頭は、自然とこのやうに働くやうに作られてゐるらしい。世界的な数学者として有名な、故・岡潔先生は、学生時代、試験の前夜に一度本を読めばそれで覚えられ、試験でいつも満点が取れたさうである。その代り、答案を書き終へて教室を出る時には、それが頭からどんどん消えて行くのが自分でも感じられた、といふ事を仰しやうてゐる。

かういふ頭の働き方をする頭が、本当に良い頭といふものであらう。「覚えるのも早い、用を果したあとは忘れるのも早い」……これが本当の頭の働き方なのだと思ふ。だから、覚えるのに時間がかかる頭、何度も何度も読み返さないと覚えられない頭、その代り、一旦覚えたあとは、それを覚えて置く必要が無くとも覚えてゐる頭、かういふ頭が「働きの悪い頭」なのであらう。

そもそも何かを「覚えよう」と思ふからには、それを覚える目的があるはずである。だから、その目的が果されれば、もうそれを覚えて置く必要はなくなる。さうなったら、忘れてしまった方が良く、それで、「覚えようと努力して覚えた事は忘れ易い」のだと思はれる。

さう考へたら、一生涯覚えて置く必要のある漢字は、テストを課して覚

第七章 国語の教育

(一) 幼児期の国語教育

えさせるやうな事をすべきではない、といふ事が解るであらう。書取りテストのために覚えた漢字は、テストが済めば忘れてしまふのが自然の成り行きである。今の学校教育における漢字の学習は、「忘れるために努力して覚える」学習であると言へよう。

幸ひに、幼児は、特に強要しない限り、言葉でも漢字でも「覚えようと努力して覚える」事は決してしない。少しも努力しないでゐて、ひとりで覚えられてしまふのである。時実先生が仰しやるやうに「一生のうちで最も記憶力の強烈な時期」だからである。

かういふ理由があつて、私は、「幼児に漢字を教へようと思つてはいけない」と言ふのである。幼児の周囲で、私たちが努力して多くの漢字を使つてゐさへすれば、幼児はそれらの漢字をひとりで覚えてしまふものである。言葉をひとりで覚える幼児が、それよりも覚え易い漢字を覚えられない訳が無いではないか。

この「幼児の周囲で私たちが努力して多くの漢字を使つて行ふ教育」のことを、私は、「漢字で教へる」教育と名付けてゐる。この教育を受ける幼児たちは、決して「漢字を覚えよう」と思ふことも無く、さういふ努力をすることも無く、ひとりで漢字を覚え、覚えた漢字を忘れないだらうと思ふ。そして、何よりも漢字が好きな子供になってくれて、決して漢字嫌ひにはならないことを確信する。